

# 大正八年度直轄工事年報

## 總論

### 第一 治水事業

我國ニ於ケル河川中流域面積廣ク流路長キモノ約百卅五箇川アリ其内流域面積十方里幹川流路延長十里以上ノモノ六十五箇川ニ達セリ其灌漑面積ハ總計百八萬六千町歩ニ及ビ我國田畠總面積ノ五分ノ一ヲ占ム然ルニ各河川ノ流域内山地ハ概ネ大山脈ニ富ミ河川ノ勾配急ニシテ流水ノ包容力乏シク地質モ亦脆弱ナルヲ以テ一朝暴風雨ノ襲來スルコトアランカ土壤ハ忽ニシテ崩壊ヲ來シ爲ニ河底ヲ埋堆スルコト勘カラズ從テ夏秋ノ候降雨頻ニ臻リ暴風之ニ伴フコトアランカ濁流滔々或ハ堤外ニ漲溢シ或ハ堤防ヲ破壊シ爲ニ洪水ノ慘害ヲ演出スルコト決シテ勘少ナラズ年々巨額ノ被害(自明治四十二年至大正七年十箇年間平均水害損失價額五千七拾七萬九千九百九拾貳圓)アルヲ以テ政府ハ夙ニ治水ノ必要ヲ認メ河川ノ修築改良ニ意ヲ用ユルモノ既ニ久シ今明治七年ニ於テ始テ改修工事ニ著手シタル以來時代ヲ劃シテ其事業ノ大觀ヲ述ブレバ左ノ如シ

#### 第一期(自明治八年度至同十九年度)

國ニ於テ河川工事ヲ直轄シテ施行セルハ明治七年五月濱川ヲ以テ噶矢トス爾來明治十八年六月迄ニ濱、利根、信濃、木曾、北上、阿賀野、富士、庄、阿武隈、最上、筑後、吉野、大井、天龍ノ十四大川ニ及ベリ然ルニ當時ハ單ニ一局部ニ於ケル亂流ノ制水又ハ砂防工事等ヲ施行シタルニ止マリ其工法ノ如キハ雇外國技師及本邦技師

ノ新案創造ニ係ル工事ヲ實施シタルモノナリ而シテ本期間ノ總工費ハ參百五萬八千六百四拾圓ニシテ一箇年度平均廿五萬四千八百八拾七圓ニ當レリ

### 第二期（自明治廿年度至同廿八年度）

明治十九年濱川（同川ハ明治十九年度迄ニ伏見守口間低水工事ヲ完了ス）以外ノ河川ニ對シ從來ノ低水工事ト共ニ高水工事ヲモ實施スルノ計畫完成シタルヲ以テ廿年度ヨリ毎年度ノ土木經費ヲ百五拾萬圓ト定メ内八拾五萬圓ヲ各川ノ修築費ニ充テ夫々起工シタリ爾來漸次工費ヲ増大シテ各川ノ工事ヲ進行シタルヲ以テ本期間ノ總工費ハ六百七拾壹萬四千參百九拾圓、一箇年度平均七拾四萬六千四拾參圓ニ當レリ

### 第三期（自明治廿九年度至同四十三年度）

明治廿九年度ニ至リ法律第七十一號ヲ以テ河川法ヲ公布セラレ河川ノ改修ハ地方行政廳ニ於テ之ヲ施行スルヲ原則トシ其工事ニシテ利害ノ關スル所一府縣ノ區域ニ止マラザルトキ又ハ工事至難ナルトキ若ハ工費至大ナルトキ又ハ河川ノ全部若ハ一部ニ付大體ニ涉ル一定ノ計畫ニ基キテ施行スル改良工事ナルトキハ場合ニ依リ内務大臣ニ於テ自ラ之ヲ施行スルコト、ナレリ依テ同年度ヨリ直ニ同法ニ依リ濱川ノ高水防禦工事ヲ起シ次デ卅三年度ニハ利根川第一期、庄川及九頭龍川ノ改修工事ヲ卅九年度ニハ遠賀川ノ改修工事ヲ四十年度ニハ濱川下流低水工事、利根川第二期、信濃川、吉野川及高梁川ノ改修工事ヲ四十二年度ニハ利根川第三期改修工事ヲ四十三年度ニハ利根川ノ支川渡良瀨川改修工事ヲ起セリ而シテ本期間ノ總工費ハ四千五百九拾六萬八千六百六拾貳圓ニシテ一箇年度平均參百六萬四千五百

第四期（明治四十四年度以降）

明治四十三年中全國各地方ニ大水害起リ未曾有ノ悲慘事ヲ演出セルヤ政府ハ内務大臣ヲ會長トシ關係各廳高等官、貴衆兩院議員及學職經驗アル者ヲ委員トセル臨時治水調査會ヲ設ケ調査審議ノ結果全國ニ瓦ル根本的治水ノ計畫ヲ樹立シ之ニ關スル豫算ヲ第廿七回帝國議會ニ提出シ其協贊ヲ經テ明治四十四年度ヨリ該計畫ニ基キ事業ノ遂行ヲ努ムルニ至レリ右計畫ハ之ヲ分チテ河川改修計畫ト砂防計畫ノ二トシ河川ノ改修ハ河川法ニ依リ國ノ直轄事業トシテ改修ヲ爲スキ河川ヲ六十五箇川ト定メ之ガ施行時期ヲ二期ニ分チ改修ノ利益ヲ成ルベク全國各地ニ均霑セシムルノ趣旨ニ基キ當時現ニ工事施行中ナリシ河川即チ濱、利根（渡良瀬ヲ含ム）信濃、庄、木曾、吉野、九頭龍、遠賀、高梁ノ九箇川ト之ニ加フルニ荒、北上、雄物、阿賀野、富士、最上、神通、岩木、加古、綠、斐伊ノ十一箇川合計廿箇川ヲ第一期河川トシ爾餘ノ天龍、阿武隈、筑後、那珂、庄内、中、手取、矢作、大和、吉井、馬淵、紀、大淀、由良、多摩、關、米代、鳴瀬、久慈、菊池、鄉、旭、渡、蘆田、川内、相坂、千代、鶴見、大野、球磨、相模、肱、矢部、狩野、圓山、肝屬、太田（靜岡）豊、白、大分、酒匂、鈴鹿、太田（廣島）名取、仁淀ノ四十五箇川ヲ第二期河川トシ第一期河川ノ改修工事ノ内施行中ニ係ルモノハ竣工期限ヲ繰上げ又當時計畫調査ノ終了セル荒及北上兩川ノ改修ハ明治四十四年度ヨリ工事ニ着手スルコトヽシ其他ノ河川ハ改修計畫ノ調査ヲ行ヒ其結了ニ從ヒ漸次之ニ着手シテ大正十七年度迄ニ全部ヲ竣工セシメ第二期河川ハ第一期河川ノ工事期間内ニ調査ヲ行ヒ第一期河川改修工事ノ竣工俟チ改修ニ着手シ得ベキ準備ヲ爲スコトヽセリ又砂防計畫ハ河川改修ノ計畫ニ伴ヒ直轄河川ノ流域ニ對シテハ國自ラ之ヲ施行スルヲ原則トシ地方行政廳ニ於テ施行スル砂防工事ニ對シテハ國庫ヨリ相當ノ補助ヲ與ヘ將來益々之ヲ獎勵シ國ノ直轄工事ト相俟テ漸次砂防計畫ノ完成ヲ期スルコトヽセリ而シテ之ガ遂行ノ爲ニ明治四十四年度ヨリ大正十七年度ニ至

ル十八箇年ノ繼續費トシテ其總額ヲ壹億七千六百七拾四萬四千四百七拾壹圓トシ其内壹億參千五百七拾五萬七千九百七拾四圓ハ國庫ニ於テ負擔シ四千九拾八萬六千四百九拾七圓ハ地方ヲシテ分擔セシムルコトニ定メ右計畫ニ基キ明治四十四年度以降著々事業ノ進捗ニ努メ來レル所財政ノ都合上大正二年度ニ至リ本經費モ亦一部分繰延ノ不得止ニ至リタル爲メ同年度ヨリ毎年所要額ノ約三割宛ヲ繰延ベ大正七年度以降ニ於テ毎年度五拾萬圓乃至百萬圓宛ノ繰戻ヲ行フコト、シ尙各河川毎ノ竣工年限ハ事業ノ緩急及設計追加等ノ關係ニ依リ一箇年乃至數箇年ヲ延期スルコト、セルモ第一期事業全體ノ完成年限ハ從來ニ比シ一箇年ヲ延長スルニ止メ大正十八年度迄ニ全部完成ノコトニ變更シタルノミナリ而シテ今日迄ニ改修工事ノ完成ヲ告ゲタルモノハ利根川第一期工事、庄川、木曾川(下流)九頭龍川(幹川及足羽川)、濱川、遠賀川ノ六箇川ニシテ事業中ニ屬スルモノハ濱下流改修工事、利根第二及第三期工事(渡良瀬川及江戸川ヲ含ム)信濃北上、雄物、阿賀野、最上、吉野、九頭龍、高梁、荒岩木、神通、加古ノ十四箇川ニシテ未ダ起業ニ至ラザルモノハ木曾(上流)富士、斐伊、綠ノ四箇川ナリトス又砂防工事ニシテ現在直轄施行中ノモノハ富士川流域、濱川流域、野洲川流域(濱川支川)桂川流域(同上)大谷川流域(鬼怒川支川)千曲川流域、吉野川流域、神通川流域等ナリトス

以上ノ如ク政府ハ著々第一期河川ノ改修工事ニ努力シ居レルモ其改修區域ハ利害ノ關係極メテ重大ナル主要幹川ノ部分ニ限ラズ其上流又ハ支派川ノ改修ハ之ヲ關係地方ノ經營ニ俟ツヲ要シ又第二期河川ノ改修ハ第一期河川改修工事竣功後即チ十有餘年ノ後ニ非ラザレバ工事ニ著手スル能ハザル順序ナルモ比年是等各川ノ洪水頻ニ臻リ其損害甚大ニシテ改修工事ノ急施ハ益々必要ニ迫レルヲ以テ關係地方ニ於テハ或ハ速ニ國ノ直轄施行ヲ望ミ或ハ國庫ノ補助ヲ得テ自ラ進デ之ヲ施行セントスルモノ勘カラ

ズ政府モ亦是等河川ノ改修工事速成ノ緊要ナルヲ認メ第一期河川ノ上流及支派川並第二期河川等ニシテ平地面積廣ク利害關係極メテ重大ナルモノニ對シ關係府縣ニ於テ根本的改修計畫ノ調査ヲ了シ工事ニ著手ノ場合其工費ニ對スル國庫補助ヲ申請スルモノアルニ於テハ國庫財政ノ都合ニ依リ相當補助ヲ與ヘ且場合ニ依リ明治卅年法律第卅七號ニ依リ内務大臣ニ於テ事業ヲ直接施行スルノ方針ノ下ニ大正六年度以降宮城縣ニ對シ江合、鳴瀬兩川改修費二分ノ一國庫補助ノ新例ヲ開キ次デ大正七年度ヨリ多摩川及信濃川ノ上流千曲川ノ改修工事ニ對シテモ亦工費半額ノ補助ヲ與ヘ且其事業ヲ直接施行スルコトヽシ尙大正八年度ヨリ太田川、阿賀川及阿武隈川改修工事ニ從事シタリ又大正六年九月卅日及十月一日ニ於ケル濱川流域洪水ノ實況ニ鑑ミ更ニ同川改修増補工事施行ノ必要ヲ認メ大年七年度以降河川法第八條ニ依リ該工事ヲ直轄施行スルニ至レリ

## 第一　港灣修築事業

本邦ノ港灣ハ古來多クハ單ニ天然ヲ利用シタルモノヽミニシテ殆ド工事ヲ施行セルモノ無カリシガ其修築工事ニ著手セシハ明治十一年五月國庫金拾四萬參千餘圓、府縣費及私費八萬五千餘圓、合計廿二萬八千餘圓ヲ以テ越前國三國港ノ突堤工事ヲ直轄施行セシヲ以テ嚆矢トス爾來漸次他ノ諸港ニ對シテモ政府自ラ修築工事ヲ施行シ又ハ國庫補助ヲ與ヘテ之ガ助成ニ努メタリシガ時運ノ急進ト共ニ港灣問題ハ益々重要ト爲リシカバ明治卅三年六月勅令第二百六十二號ヲ以テ港灣調査會ヲ設ケ港灣制度ニ關スル調査及港灣ニ關スル重要事項ヲ審議セシメタリシモ同會ハ卅六年ニ至リ各種ノ調査會廢止ト共ニ一時廢絶シ其後卅九年六月ニ至リテ再ビ内務省ニ港灣調査會ヲ設置シ更ニ翌四十年六月勅令第二百四十三號ヲ以テ港灣調査會官制ヲ定メラレ港灣調査會ハ會長一人委員廿人ヲ以テ之ヲ組織シ内務大臣監督ノ

下ニ港灣ニ關スル制度、重要港灣ノ計畫及設備ニ關スル事項ヲ調査セシムルコト、ナル(明治四十四年八月勅令第二百廿三號ヲ以テ委員ヲ廿五人ニ増加ス)茲ニ於テ同會ハ明治四十年十月ノ決議ヲ以テ本邦港灣ヲ第一主トシテ國ニ於テ修築スルモノ、第二地方ニ於テ修築ノ工ヲ起ス場合ニハ財政ノ都合ニ依リ國庫ヨリ相當補助ヲ與ヘ之ヲ助成ス可キモノ、第三地方ノ獨力經營ニ委ス可キモノ、三種ニ區別シ横濱、神戶、關門海峡、敦賀ノ四港ヲ第一種港灣ニ東京、伊勢灣内ニ於ケル一港、大阪、鹿兒島、長崎、境、新潟船川(土崎ヲ含ム)青森、仙臺灣内ニ於ケル一港ノ十港ヲ第二種港灣ニ選定シタリ次デ明治四十三年五月伊勢灣ノ一港トシテハ四日市港ヲ、仙臺灣ノ一港トシテハ鹽釜港ヲ選定セリ右第一種港灣中敦賀港ニ對シテハ明治四十二年七月工費七拾參萬九千餘圓ヲ以テ焦眉ノ急ニ應ズル施設ニ著手シ大正三年三月竣工シタリ又關門海峽ニ對シテハ明治四十三年度ヨリ航路及泊地ノ改良事業ニ著手シ大正五年度以降ハ大正十三年度ニ至ル八箇年ノ繼續事業ト爲シ工費豫算八百拾萬圓(事務費ヲ含ム)ヲ以テ實施中ニ屬ス又同會ハ第二種港灣ノ内明治四十四年中四日市、鹽釜、青森、船川ノ四港ニ對スル修築計畫ヲ大正三年中新潟港ニ對スル修築計畫ヲ夫々議定シタルヲ以テ政府ハ關係公共團體ノ申請ニ基キ四日市、鹽釜、青森、船川ノ四港ニ對シテハ大正三年度ヨリ修築工費ノ二分ノ一ヲ新潟港ニ對シテハ大正六年度ヨリ修築工費ノ三分ノ一ヲ數年度ニ分割補助シ事業ヲ遂行セシムルコト、セリ以上ノ内鹽釜港及新潟港ノ工事ハ大正六年度ヨリ國ニ於テ之ヲ直接施行スルコト、シ兩港トモ大正十年度ニ竣工ヲ告グルノ豫定ナリトス

### 第三 大正八年度施行工事

大正八年度直轄施行工事(直接施行工事ヲ含ム)ハ河川二十、河川附屬物及水路維持二、砂防八、港灣六、港灣維持一ニシテ本省直轄ノ下ニ東京第一、東京第二、仙臺、秋田、新潟、大阪、下關及神戶ノ八土木出張所ニ於テ工事施行ノ任





計

第東  
二京

總計

橫濱港維持

四〇、七七九、一二三五〇〇

七、九六二、五四九九一三

二、四六四、五九二九五〇

六五八、三三三五七七

一一〇八五、三七六四四〇

二九、六九三、七四七〇六〇

一七七、五二七一三三

三四一、八七二八六七

○・五七

○・五四

東京第一 土木出張所

四五九、四〇〇〇〇

四〇、三一三、九三三八二七

四、四六九、三三六六一七

一、三一六、〇六八六〇七

四六〇九九、三三九〇五一

○・八四

東京第二 土木出張所

五三、五〇四、一三二四八五

四一、四九八、四〇〇〇〇

一〇、六三六、九二七一一一

一、八三五、五九六五二七

三五、一、四二五九三三

○・二二

仙臺土木出張所

二四、五三七、一五〇〇〇〇

二二、四〇〇、〇〇〇〇〇

一五三、一三六〇七九

一二、一〇七、七〇六三一六

一二、八二三、九四九五七一

○・三〇

秋田土木出張所

新潟土木出張所

四二、九九〇、七〇一〇〇〇

一三、六二九、五〇一〇二二

三、四九五、四二七四一四

一八、八八〇、五一九三八二

○・八四

大阪土木出張所

三五、〇九四、九八五〇〇〇

一七、五六九、二四一六六五

一、三九三、八一一六六九

一二、一〇九、三四九九四〇

一八、六七四、四五〇四二九〇

○・二二

下關土木出張所

二三、二九七、一五一五〇〇〇

一三、二九九、一五四一五〇

一、三一七、一四一二四六六

九四、九六七五四二

一、六四一、九一五二九〇

○・〇七

神戸土木出張所

二三、五〇四、三〇九〇〇〇

二、五五五、〇七八七八八

五、一〇二、二七八七八九

一、二〇九、三四九九四〇

五、六五六、六三〇六一八

○・四〇

計

二五六、八二六、八二八九八五

□×△\*九四二二八五、九三四

六六五、二二七、九二三五

一、五三六〇、四三二五

一、二〇九、三七三九〇

○・五九

計

二二二、九六二、九二八九八四

二二、一七一、四一二四六六

九二四、七二九九一八

二九、一〇一、五九九四三七

二、一、二六三、八九五八〇四

○・五九

計

二二三、五〇四、三〇九〇〇〇

二、五五五、〇七八七八八

五、一〇二、二七八七八九

一、二〇九、三四九九四〇

五、六五六、六三〇六一八

○・四〇

計

二二二、九六二、九二八九八四

二二、一七一、四一二四六六

九二四、七二九九一八

二九、一〇一、五九九四三七

二、一、二六三、八九五八〇四

○・五九

計

二二二、九六二、九二八九八四

二二、一七一、四一二四六六

九二四、七二九九一八

一、二〇九、三四九九四〇

五、六五六、六三〇六一八

○・四〇

備考 横濱港維持工事ノ豫算ハ大正八、九兩年度ノ分ヲ計上シタルモノナリ

總

論

一〇